

## 桐光会へのお礼メッセージ(2016年度春学期)

---

### #1

この度は、桐光会奨学生に採用して頂きまして、誠に有難う御座います。御陰様で学業に専念することが出来ます。私の父が病気を患ってしまい、現在も治療を続けている為、経済的に学費を納める事が難しい状況がありました。私自身も学業に専念する一方で、アルバイトの時間も増やし精一杯やって参りましたが、両立は極めて困難でした。ですが、今学んでいる事は、将来の夢の為であり、どうしても諦められませんでした。そうした中で、桐光会奨学生に採用して頂き、学費を納める事が出来ました。心からの感謝を申し上げますと共に、残りの学生生活もより一層の努力と学業に邁進して参る覚悟で御座います。そして、手続きをして下さった職員の皆様、心から御礼申し上げます。誠に有難う御座いました。

韓国語学科奨学生本人

### #2

この度は、桐光会奨学生に採用して頂き、誠にありがとうございました。去年の12月に母が急に倒れ、帰らぬ人となりました。入学当初から、学費は全て自分の奨学金から出していました。多額の奨学金を借り、父からの学費の援助は無く、アルバイトで自分のお小遣いを稼いでいる現状です。母が亡くなり、家事なども同時に行わなければならなくなり、勉学にも一層力を入れなければならないこの二年生の時期に、アルバイトを増やすことは困難でした。そのような時に桐光会の奨学生に採用して頂き、御支援をしていただきました。私は今回採用して頂いたということに、応援して頂いているような感じがしました。たくさんの方々の御支援があり、私は毎日学校に通えています。感謝の気持ちを忘れずに、奨学生として様々なことに精一杯努力し、頑張っていきます。この度は本当にありがとうございました。

理学療法学科奨学生本人

### #3

この度は桐光会生活支援奨学金を採用して頂き、本当にありがとうございます。私の家庭は父が定年退職した後、なかなか再就職先が見つからない上に、今年から妹が私立大学に入学することになり、学納金を納めることに困難が生じてしまいました。しかし今回桐光会の生活支援奨学金に採用して頂いたことで、無事学納金を納めることができました。大学卒業後、両親の負担を少しでも減らせるように残りの学生生活も熱心に取り組み、学業に一層励んでいく所存です。桐光会の皆様、そして桐光会生活支援奨学金を申請する際にサポートして頂いた学生課の職員の皆様に深く感謝すると共に、目白大学の学生として恥じぬよう日々努力していきます。

児童教育学科奨学生本人

#### #4

この度は、桐光会奨学生に採用して頂き、誠にありがとうございます。私の父が糖尿病の合併症により今年の2月から週3回人工透析をすることになりました。人工透析を行うようになってから、日に日に身体が疲れやすくなったり、身体の具合が悪く仕事を早退してきてしまうことが増えていきました。私の家庭では主に父の収入で生活していたため、このままだと無事に学納金を納めることができるのか不安の中にありました。しかし、桐光会奨学生に採用して頂いたことにより、無事に学納金を納めることができました。これから、長期実習や国家試験の勉強でより忙しくなってきますが、桐光会奨学生として恥じぬよう一層の努力をする所存です。最後になりましたが、桐光会の皆様、そしてお力添え頂いた学生課の職員の皆様、この度は桐光会奨学生に採用させて頂き、誠にありがとうございました。

作業療法学科奨学生本人

#### #5

この度は桐光会「生活支援奨学金」の選考において採用していただきました事、心より感謝致します。今回選んでいただいた事で尚一層勉学に励もうと思いましたが、3年前に父が病気の為に退社し蓄えを崩しながら生活してきましたので大学進学も諦める事を考えましたが、夢に向かって頑張りたいという両親の願いに押され入学致しました。目白大学での生活は毎日とても楽しく充実していて、入学して良かったと実感しています。これからも桐光会への感謝の想いを胸に刻み、奨学金をいただいた学生の名に恥じない様に精進していきます。ありがとうございました。

児童教育学科奨学生本人

#### #6

この度は、桐光会奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。わたしの家庭は母子家庭で経済的に余裕がない状態で、さらに兄弟の進学が重なり、学納金を納めることが困難となっていました。そのような不安の中、桐光会奨学生として採用して頂いたことにより、無事に学納金を納めることができました。桐光会奨学生に選んでいただいたことに感謝し、これからもより一層勉学に励んでいきたいと思えます。そして将来は言語聴覚士としてたくさんの人の役に立つことのできる人間になれるよう頑張ります。本当にありがとうございました。

言語聴覚学科奨学生本人

#### #7

この度は、桐光会生活支援奨学金を支給していただき、誠にありがとうございます。この奨学金により、経済的に非常に助かっており、経済的負担の軽減から安心して学業に専念することができています。私は現在、就職活動や将来のための準備として、資格取得の為に勉強をしています。残りの大学生活もより一層勉学に励み、日々精進してまいります。未筆ながら、重ねて御礼申し上げますとともに、ご挨拶申し上げます。

英米語学科奨学生本人

**#8**

このたびは、桐光会奨学生としてご採用いただき、ありがとうございます。社会人入学のため、大学にかかる費用は自費でまかなっており、アルバイト収入と貸与型の奨学金を利用し学生生活を送っています。家庭の事情により経済的に不安定な状況が続いており、3年次春学期は、学納金の納入が困難となりました。そんな折、桐光会奨学金が拡充されると知り、学生課への相談を経て、ご支援いただくことになりました。奨学生として採用が決まったと知らせを受けたとき、これまでの不安から解放され、心の底からほっとしたことを覚えています。学生生活は残り一年半となりますが、卒業論文、臨床実習、国家試験と、目の前にある課題にひとつひとつ丁寧に取り組み、卒業後は、医療に関わる一員として世の中に貢献していく所存です。桐光会の皆様、学生課の職員の方々、このたびは、本当にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

言語聴覚学科奨学生本人

**#9**

母子家庭であり、大学に通わせるにも大きなお金がかかるのにも関わらず、母は大学進学を勧めてくれました。私は空いている時間はアルバイトに回しましたが、3年生になった今、弟が大学受験を迎える年となり私自身もゼミ活動が始まり家庭的にも苦しい状況になりました。それだけでなく母自身の身体も良くないため、私は大学を退学することも考えました。しかし、今まで大学の勉強に一番力を注いできたため、大学を退学することを止められました。そんな時、桐光会の奨学金の通知が家に届き、最後の望みとして申請をしました。今、皆様からのお金で大学に通わせていただいております。感謝の気持ちとして一層勉学に励み、ゼミや就職活動を通して大学に貢献したいと思います。この度は本当にありがとうございます。

メディア表現学科奨学生本人

**#10**

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。この度は、世情厳し奨学金を給付頂けます事、心より厚くお礼申し上げます。おかげを持ちまして、勉学に打ち込める環境を得ることができました。私は母子家庭であり、卒業までの学費を支払うことが難しい状況にありました。今後の大学生活の中で給付して頂いたことを意識し、努力を怠ることなく励んでまいる所存です。末筆ながら、桐光会の皆様のますますのご発展をお祈り申し上げます。ご支援誠にありがとうございます。精一杯頑張ります。 敬具

製菓学科奨学生本人

**#11**

この度は、桐光会奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。私の家庭は母子家庭で、母は病気を患い、仕事を減らして十分な稼ぎがありませんでした。進学を控えた弟もいて、学納金が納められるか不安でした。そのような状況の中、奨学生に採用していただき、無事学納金を納めることができました。

した。これから桐光会奨学生として、一層努力をして、将来看護師として社会に貢献できるよう頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。

看護学科奨学生本人

**#12**

この度は、桐光会応急支援奨学金に採用して頂き、誠に有難うございました。父が入院してからは、母も仕事で体調を崩し、生活費と学納金の支払いは経済的にとても厳しい状況となりました。そんな中、桐光会の皆様にこの様な支援をして頂いたこと、心より御礼申し上げます。皆様への感謝とともに、残りの学生生活を有意義なものにして、目白大学を卒業したいと思います。

心理カウンセリング学科奨学生本人

**#13**

この度は桐光会奨学生に採用して頂き、本当にありがとうございました。昨年に父が亡くなり、このまま大学を続けていくか悩んでいた時、桐光会の奨学金制度を知り、支援して頂くことになりました。私は現在3年生ですので、学生生活も多くは残っておりません。しかし、残された時間の中で、しっかりと勉学に励み、自分の目標に向かって前進したいと思います。最後に繰り返しになりますが、桐光会奨学生に採用して頂きありがとうございました。

韓国語学科奨学生本人

**#14**

この度は桐光会奨学生に採用していただき誠にありがとうございます。家庭の経済状況が厳しくなり、自分で学納金やその他の費用を用意しなければならず、授業の無い時間帯や長期休業を利用したバイト代では学納金のすべてを用意できなくなり、途方に暮れていた時に桐光会の奨学金を知り、そのおかげで春の学納金を全納付することができました。これで安心して学生生活を送ることができます。残りの学生生活も目白大学生としての誇りを持ち、勉学に励んでいきます。奨学金を採用してくださった桐光会の皆様、そして学生課の職員の皆様に心より感謝申し上げます。

英米語学科奨学生本人

**#15**

この度は、桐光会奨学生として採用して頂き、誠にありがとうございます。女手一つで育ててくれた母が体調を崩してしまい、小学校教員になるという夢を諦めなければならないだけでなく、教員免許の取得さえできなくなるのではないかという不安に襲われていました。しかし、桐光会奨学生に採用して頂いたことで、これから行われる教員採用試験に向けて一層集中して臨むことができるようになりました。桐光会の皆様、そして相談に乗ってくださった学生課の皆様には、とても感謝しております。本当にありがと

うございました。

児童教育学科奨学生本人

**#16**

この度は、桐光会奨学生に採用していただき、ありがとうございます。採用していただいたことで、勉学をはじめ、卒業研究や就職活動に思い切り専念でき、残りの学生生活を充実させることが可能となりました。これは貴会の厚いご支援のおかげであり、私はもちろんのこと、家族一同感謝の気持ちで溢れています。この奨学金のありがたみを充分に感じながら、大切に使用させていただきます。そして、私を支えてくださいました方への感謝、ご恩を胸に卒業に向け日々精進して参ります。経済不況が言われる中でも、こうして支えてくださった貴会の皆様をはじめ、支給事務に携わったすべての方に心から御礼申し上げます。最後になりましたが、今回は本当にありがとうございます。

メディア表現学科奨学生本人

**#17**

この度は、桐光会奨学金制度に採用していただき、誠にありがとうございました。母子家庭で、経済的困難な状況に加え、家庭の事情で更に家計が苦しくなってしまう、大学に通えなくなると思っていた時に、この制度を知り、無事に採用していただき、学納金を納めることができました。本当に心から感謝しています。アルバイトは、学業を疎かにしない厳しい状況の中、何とか続けていたのでこれ以上増やすことが困難でした。今回の御支援により、私はまた学業に専念することが可能となったので、今まで以上に気を引き締めて励みたいと思っています。これからも桐光会奨学金制度が、私のような学生にとって意味のあるものであるよう願っています。この御支援を糧に、日々精進していこうと思っています。最後に繰り返しますが、今回は桐光会奨学金制度に採用していただき、ありがとうございました。

心理カウンセリング学科奨学生本人

**#18**

この度は、「生活支援奨学金」を頂き、誠にありがとうございます。私が高校生のときに父が病気にかかってしまい働くのが困難になりました。今もリハビリに通っていて徐々にですが回復しています。しかし、家が自営業なので収入が安定せず、学納金の支払いが厳しくなりました。その中で桐光会から採用の知らせを頂き、とても感謝しております。このような援助をして頂けた事、また桐光会の皆様のご支援に恥じないよう今後もより一層勉学に励み、残りの学生生活を有意義に過ごしていきたいと思っています。この度は本当にありがとうございました。

英米語学科奨学生本人

**#19**

この度は、桐光会奨学生に採用して頂き、誠にありがとうございました。1年前に父が他界し母子家庭

となつてしまい、金銭的に余裕がなくなり、学納金を納めることが困難な状況でありました。今年は最終学年ということもあり、アルバイトを増やす余裕もなかったため、卒業できるかどうか不安に思っていた時に、桐光会の奨学金制度のことを知りました。奨学生に採用して頂いたことで、無事に学納金を納めることが出来、安心して就職活動や国家試験の勉強に打ち込むことが出来るようになりました。ご支援頂いた感謝の気持ちを忘れず、将来作業療法士として社会に貢献できるよう頑張りたいと思います。この度は、本当にありがとうございました。

作業療法学科奨学生本人

## #20

この度は桐光会奨学生として採用して頂き、誠にありがとうございます。私の家は母子家庭で、毎年の学納金を収めることもかなり困難な状況です。しかし、一年毎に授業や、実習などの時間も厳しくなってアルバイトをする時間や体力が厳しくなっておりました。そんな中、この桐光会の奨学生に採用されて、無事学納金を収めることができました。心より感謝申し上げます。今後あと約1年半控えている授業、実習、さらに就職活動、国家試験の勉強により一層気を引き締めていきたいと思っております。今後も最後まで目白大学で充実した学生生活を送れるように頑張りたいと思っております。最後に繰り返しになりますが、桐光会奨学生に採用させて頂き誠にありがとうございました。

作業療法学科奨学生本人